

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19592554
 研究課題名（和文） ALS療養者の地域包括型緩和ケア提供のための看看連携方略と現任教育プログラム開発

研究課題名（英文） Development of Educational program for nurses-nurses collaboration to provide community-based palliative care for individuals with ALS

研究代表者

牛久保 美津子 (USHIKUBO MITSUKO)

群馬大学・医学部・教授

研究者番号：90213412

研究代表者の専門分野：難病/在宅看護学
 科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学
 キーワード：難病、ALS、連携、緩和ケア

1. 研究計画の概要

本研究目的は、ALS療養者・家族がかかえるさまざまな苦痛や苦悩を緩和するための地域看護職者間の連携方略および、在宅緩和ケア提供のための現任看護師の難病看護教育に関する提言を行うことであり、研究計画は以下のとおりである。

- ① ALS療養者の相談に関する実態調査
- ② 看看連携の具体的内容・方法の把握と問題点の明確化のための調査
- ③ 看看連携方略・現任教育プログラムのモデルを作成、実施、評価

2. 研究の進捗状況

上記①は実施済み。上記②は保健師と訪問看護師を対象に調査済み。また ALS療養者の個々の療養経過にそって、看護支援者の看護上の困難点と連携上の困難点を明らかにする調査を実施した。上記③は、次年度に実施予定。診断期の看看連携のあり方、および ALS 球麻痺タイプの在宅ホスピスケア期に関する看看連携のあり方を含む現任教育内容について具体的に検討していく予定。

3. 現在までの達成度

区分③やや遅れている。

その理由：地域における看護の質向上および地域連携の推進の考え方を基盤に据えた調査のため、看護職者のたび重なる異動（特に神経難病医療専門員や退院支援ナース、保健所保健師）により、調査が計画通りに進まないといった影響が大きい。しかし、そういった不利な状況ではある中、調査規模や対象者の制約を行い、可能な限りの調査は実施し

ていると考える。

4. 今後の研究の推進方策

次年度が最終年度になっており、不足しているデータの収集と分析、および教育モデル検討のための時間的捻出が課題である。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 4件)

- ①牛久保美津子. 神経難病療養者に対するトータルケアの創造と発展. 日本難病看護学会誌 2009;14(2):98-104. (査読無)
- ②牛久保美津子, 飯田苗恵, 大谷忠広. 在宅ALS療養者の人工呼吸器をめぐる意思決定支援のあり方に関する看護研究. Kitakanto Med J 2008; 58(2): 209-216. (査読有)
- ③遊佐美紀, 牛久保美津子. 人工呼吸器不装着の筋委縮性側索硬化症療養者を看取った配偶者における告知から死別後までの体験. 日本難病看護学会 2008; 13(2): 158-165. (査読有)
- ④牛久保美津子. ALS療養者における人工呼吸器非装着の選択にいたった意思決定状況 - 訪問看護師の振り返りによる. 在宅と難病ケア 2008;14(1):43-46. (査読有)

[学会発表] (計 11件)

- ①牛久保美津子, 小林美智子, 牛久保美津子. 訪問看護状況把握からみたA市内管内難病療養支援ネットワーク構築に向けての課題 第14回日本難病看護学会 2009年8月28-29日、群馬。

②川尻洋美, 牛久保美津子. 保健所保健師の難病支援活動状況をふまえた支援者サポートの必要性 第14回日本難病看護学会 2009年8月28-29日、群馬.

③岡田美砂, 川尻洋美, 牛久保美津子. 意思伝達手段獲得支援事業におけるユニークな看護実践 第14回日本難病看護学会 2009年8月28-29日、群馬.

④神戸美菜, 須川美枝子, 富田千恵子, 星河幸代, 牛久保美津子. ALS療養者のPEGから退院後までの体験から胃瘻ケアを考える 第14回日本難病看護学会 2009年8月28-29日、群馬.

⑤遊佐美紀, 牛久保美津子. 筋委縮性側索硬化症療養者の告知から死別後までの配偶者の体験 第13回日本難病看護学会 2008年8月29-30日、東京.

⑥深澤幸恵, 小林直樹, 牛久保美津子. ALS人工呼吸器装着療養者のデイケア利用に至った在宅療養支援態勢整備 第13回日本難病看護学会 第13回日本難病看護学会 2008年8月29-30日、東京.

⑦牛久保美津子, 斎藤由美子. 神経難病医療専門員が関わったALS療養者支援における看看連携の状況 第13回日本難病看護学会 第13回日本難病看護学会 2008年8月29-30日、東京.

⑧Ushikubo, M, Saito, Y. Educational needs to overcome difficulties that nurses experience in caring for individuals with ALS/MND. The 18th ALS/MND symposium, 2007年12月1-3日, Toronto, Canada

⑨川尻洋美, 金古さつき, 斎藤由美子, 岡田美砂, 岡本幸市, 牛久保美津子. 群馬県難病相談支援センターの活動実績と今後の課題 日本プライマリ・ケア学会群馬県支部研究会 2007年10月20日 群馬.

⑩牛久保美津子. ALS療養者における人工呼吸器非装着の選択にいたった意思決定状況 - 訪問看護師による体験から - 第12回日本難病看護学会 2007年8月24-25, 青森.

⑪斎藤由美子, 川尻洋美, 依田裕子, 牛久保美津子. ALS療養者のコミュニケーション機器の導入過程と支援 第12回日本難病看護学会 2007年8月24-25, 青森.

[図書] (計 1件)

①牛久保美津子 (共著)、日本プランニングセンター、ALSマニュアル決定版: 米国におけるALSの診療とケア (中島孝監修). 2009年 ページ212-215.